



人生を決めたシャチ。鴨川シーワールドにて、自ら撮影したもの



イルカショー

そして現在、私は鯨類学研究室に所属している。この研究室では研究の一環として、八丈島へのザトウクジラの来遊について研究している。2015年冬から八丈島にザトウクジラの大規模な来遊が見られ始めたため、16年から八丈町、八丈島観光協会と協力して調査を進めている。八丈島への来遊は冬にあるため、調査は主に冬から春にかけて行われる。私は3年生の春休みに初めて目視調査に参加させていただき、ブリーチングという、大きくジャンプするような行為も見られ、貴重な体験となつた。

そしてまた、変異型ウイルスの蔓延により自肃生活となつていて。昨年の経験からすっかりそのような生活には慣れてしまつた中、今は卒業論文に向けて必要なソフトウェアの勉強を進めていく。大学院へ進学する希望があるため、その見通しもつける必要もあり、4年生は意外と忙しいと感じている。しかしながら、今年度初めて論文を仕上げることを考えると少しわくわく感が出ている。未熟ではあるが、研究者の一人として論文を書き上げたときの感覚が楽しみだ。大変そうだが頑張りがいがあると思う。

ところで、大学院は博士前期課程（修士課程）と博士後期課程がある。私は、博士前期課程まで進み、その後は就職を考えている。卒論内容が南極海インド洋区における生態系モデルの予備的構築であり、大学院ではさらに発展的な研究を進めたいと考えている。大学での授業を通して、環境問題、海洋ゴミ問題などに触れてきた。そのためか生態系を守りたいという思いが強まり、就職もそれに沿つて決めていきたいと思うようになった。

さて、全てはシャチから始まったが、今後一体どこに繋がっていくのだろうか。ウイルスによってさらに見づらくなつた未来を、どう切り開いていこうか。不安ではあるが、期待感を持つて駆け抜けていきたい。

フレッシュトーク

エネルギーッシュに新生活を謳歌する若者たちが“いま”を語る。

シャチと駆け抜けた4年間、そしてこれから 木下 莉 (高70回)

東京海洋大学海洋資源環境学部海洋環境科学科4年



●きのした・すみれ
飯田市出身。高校時代は陸上班に所属。鯨類、特にシャチが大好き。現在は鯨類学研究室に所属し、大学院進学に向けて勉学に励み中。趣味はカメラ、登山、イラストを描くこと。

シャチが大好きでこの大学に来た。今思えば、大学の決め方などとも安易なものだった。海洋について学べ、かつ上京という目的が果たせる場所で探した結果である。しかし、さかなクンが名誉博士・客員准教授として入学式や文化祭には駆けつけてくれ、魚好きが多く集うこのミニアツクな大学が心底好きだつたりする。

サークルはもちろんシャチラボに入部した。シャチラボとは、いわば鯨類研究会で、シャチのみならず、鯨類全般を対象に勉強している。最初は鯨類が好きでも知識が伴つていなかつた。だが、1年、2年と過ごすうちに、

文化祭は3年生で引退だつたため、とても悲しくて寂しかつた。コロナを許すことはできないが、新しい常識を受け入れなければならないと考える。賑わっていた文化祭も、今年はオンライン開催となつた。でも、開催できなかつた去年を振り返れば一歩進んだことにはなるのか、と思うのである。

鯨類の知識と愛は深まっていき、現在、鯨類学研究室に所属することができている。

シャチラボの他にも、吹奏楽部、山岳部に入部した。

昔から続けていたフルートを吹きたい気持ちと、山への恋しさからか登山をしたい気持ちに突き動かされたためである。大学のサークルも、友達をつくる上でも良い機会であるため、兼部して交流を広げることも大学生活の醍醐味かもしれない。

ただ、サークルや楽しい授業の記憶は大学2年生で止まつてしまつた。大学3年時は、記憶の半分以上がコロナウイルスで埋まっている。春休みが終わつたとき、突然登校できなくなり、オンライン授業が始まつた。一部の教科は対面式授業だつたおかげで、週に2日程は登校することができた。しかし、実験科目などはオンラインで課題をこなすばかりで、少々てこずるときもあつた。

なくなつたのは対面授業だけでなく、文化祭もである。サークルは3年生で引退だつたため、とても悲しくて寂しかつた。コロナを許すことはどうなつても、新しい常識を受け入れなければならないと考える。賑わっていた文化祭も、今年はオンライン開催となつた。でも、開催できなかつた去年を振り返れば一歩進んだことにはなるのか、と思うのである。